

平成28年3月 南魚沼市議会定例会
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者
1	1	永井拓三
2	15	中沢一博
3	5	勝又貞夫
4	20	腰越晃
5	6	佐藤剛
6	2	塩川裕紀
7	16	寺口友彦
8	3	田村眞一
9	4	清塚武敏
10	17	中沢俊一
11	12	塩谷寿雄
12	23	阿部久夫
13	18	岡村雅夫
14	24	関常幸
15	22	牧野晶
16	19	今井久美
17	10	林茂男
18	26	若井達男
19	7	桑原圭美
20	9	笛木晶
21	14	黒滝松男
計		21名

【質問方式】（いずれも質問制限時間（答弁時間を含まない。）は 30 分）

一括質問一括答弁方式： 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。
（初回は登壇して行い、質問回数は 3 回まで。）

一問一答方式： 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

複合型一問一答方式： 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問 順位	質 問 内 容
2	<p>1 がん予防対策と検診強化について</p>
議 席	
1 5	
中 沢 一 博 (複 合 型 一 問 一 答 方 式)	<p>日本人の2人に1人がかかる「がん」は1981年以降、死因第1位を占め続ける「国民病」と言われている。しかし、医学の進歩で死亡率は低下する一方、罹患率は上昇している。市民の命や暮らしを守るため、がん対策の充実は絶対に進めなくてはならない。そこで予防の充実と検診強化について伺う。</p> <p>(1) 受診率向上への取組とA I C S (血中アミノ酸で判定) 普及促進について (2) 中学生への無料ピロリ菌検査の実施について (3) がん登録推進について (4) がん患者の就労支援について (5) 「かかりつけ薬局」の普及とジェネリック医薬品使用の推進について</p> <p>2 放課後児童対策と児童に合わせた支援策について</p> <p>共働きやひとり親家庭の小学生を預かる学童保育は、働く女性の増加や6年生まで対象を拡大したことなどで利用者も増えている。また今は預かるだけでなく、子どもたちの「学びの場」への支援策も求められている。そこで伺う。</p> <p>(1) 放課後児童クラブ (学童保育) の実態と対策について (2) 土曜教室の拡充について</p> <p>3 成年後見制度の促進について</p> <p>認知症などの判断能力が不十分な人を支援する「成年後見制度」の普及促進について当市の考えを伺う。</p>

質問 順位	質問 内 容
5	1 「在宅」での医療、介護が可能な地域と「まちづくり」の同時 進行を
議 席	
6	(1) 新たな地域医療を展開する上での「地域包括ケアシステム」 の重要性
佐 藤	(2) 「地域包括ケアシステム」の具現化に向けてどう進めるのか。 ①在宅医療・介護連携推進事業にどう取り組むのか。 ②行政が中心になり、医師会をはじめ多職種連携の体制づくり、 ルールづくりを進めることが必要ではないか。 (3) 地域包括ケアシステムの構築と住環境整備の同時進行を ①六日町地区の空洞化対策としての住環境整備と併せた地域包 括ケアシステム構築を進める考えはないか。 ②大和地区での地域包括ケアシステム構築については、サービ ス付き高齢者住宅誘致によるCCRC実現と、メディカルタ ウン構想にも対応した環境整備の中で進める考えはないの か。
(一 問 一 答 方 式)	2 頑張る子ども達への教育支援と生活困窮への支援 (1) 生活困窮での教育環境への影響の実態把握は (2) 「子どもの困窮対策の推進に関する法律」「子供の貧困対策に 関する大綱」及び「生活困窮者自立支援事業」を受けて、市内 の子ども達が不安なく教育を受けられるための支援はどう変わ ったか。変えるつもりか。 (3) 就学援助制度について ①就学援助の認定基準の見直しを ②要保護児童生徒と準要保護児童生徒への支援内容と、その拡 充の考えは。

質問 順位	質 問 内 容
6	<p style="text-align: center;">交通安全について</p> <p>施政方針によれば、市内の交通事故発生件数は前年比 16.4%減の 122 件という報告である。被害者、加害者ともに悲惨な交通事故の撲滅は、市民の願いである。</p> <p>地域の交通安全活動の一翼を担っている南魚沼交通安全協会は、会員離れが進んでいると聞く。もともと加入は任意であるが、交通事故の撲滅という目標に向かって、会員の増大を図っていかなければならない。</p> <p>市も賛助会費や、平成 28 年度は交通安全教室の委託を予算化してきているが、交通安全施策の実情と今後について、考えを伺う。</p>
議席	
2	
<p style="text-align: center;">塩 川 裕 紀</p> <p style="text-align: center;">（一括質問一括答弁方式）</p>	

質問 順位	質 問 内 容
8	水道料金の引き下げを
議席	
3	
田 村 眞 一 (一 問 一 答 方式)	<p>水道料金の地域格差は10倍、さらに施設の老朽化と人口減で水道料金が一気に3割も値上げする自治体もあるとの報道があった。</p> <p>そもそも日本は複雑な地形の上に広く人間の活動地域が展開しているため水道水のコストに大きな差が出ることは必然である。近年では水道施設が耐用年数(40年)を経過している自治体が増え、更新を行うためコストが高くなり、地域間格差が増大しており、解決が求められている。</p> <p>2000年、南米ボリビアのコチャバンバ市では水道民営化によって35%にも及ぶ大幅な値上げが行なわれ、それに対して市民による抗議暴動も起き、経営した会社が撤退した。民営化の弊害が多く報告されている。</p> <p>国民一人ひとりの命と生活の基礎から支える費用は、国民の間で可能な限り平等にしなさいというきまり憲法25条がある。水道法第1条でも「豊富低廉な水の供給を図り…」と水道事業の目的を明記している。</p> <p>高い水道料金には市民アンケートでも強い要望が寄せられている。市民だれもが安心して安価な水を利用できるよう市長の見解を求める。</p> <p>(1)「水を守る事は市民の生存権を守る事」という捉え方について</p> <p>(2) 民営化の問題は何か。</p> <p>(3) 福祉減免の拡充について</p> <p>(4) 近隣関係自治体とも連携して、国へ交付税の増額などを働きかけてはどうか。</p>

質問 順位	質 問 内 容
10	首長改選ラッシュの年、改めて市長見解を問う
議席	
17	
中 沢 俊 一 (一問一答方式)	<p>森長岡市長は5選を果たし、泉田知事は先の県議会で4選出馬を宣言した。そこからは長い行政経験に裏打ちされた自信が見てとれる。</p> <p>反面アメリカ大統領予備選で注目を集めるのが、政治経験の無い実業家、共和党トランプ氏の善戦だ。そこには既存の政治手法に見切りを付け、氏の持つであろう「事業」観点から、今世紀にアメリカが取り組むべき全く新しい政治戦略に期待を寄せるアメリカ国民の感情が見とれる。</p> <p>11月に改選期を迎える井口市長に、以下3点につき所見を伺いたい。</p> <p>(1)「実質公債費比率」、「将来負担比率」に代表される市財政の留意点 市長施政方針における“全国的に見ても極めて高水準”との表記の意味するもの</p> <p>(2) 市民憲章「ものづくり」重視と、ふるさと納税返礼品再検討への取組み 返礼品待望の市民世論と、議会議決尊重の観点より再確認したい。</p> <p>(3)「事業」としての南魚沼版C C R C戦略の深堀りおよび数値化 余力ある高齢者移住の誘因の明示および若者の就業・起業・定住モデルの数値化</p>

質問 順位	質 問 内 容
15	1 南魚沼版CCRCについて
議席	
22	
牧 野 晶 (複合型一問一答方式)	<p>議員として情報収集に努め、先進地視察や市長・担当課との意見交換を行っている。しかし、市長や担当課と意見交換をすると私の聞き方や受け取り方が悪いのか、それとも市長や担当課がその場しのぎの説明をするのか、ボタンの掛け違いという事例を多く感じる。</p> <p>(1) 議員や市民には、齟齬がないようしっかり説明すべき。</p> <p>(2) 1月下旬に大和商工会で開催された南魚沼版CCRC推進協議会の場でも、2事業者の提案はいずれも市が事業主体となるプランだった。今定例会初日において、市長は「市が事業主体になることはない」というこれまでどおりの説明を行った。この事はブレていないと思うが、提案した2事業者は「市が事業主体」というプランを出してきている現実がある。市の説明がしっかりしていないから、このような根本的な問題が起きるのではないか。</p> <p>(3) 事業者のプランは昨年10月頃に提案されていたと聞いているが、この根本的な部分を1月下旬まで指摘しないのは不誠実であるし、時間の無駄でもある。市の説明に問題がある明白な事例だと思うがどうか。</p> <p>2 原発対応について</p> <p>私は柏崎刈羽原発の再稼働に反対である。しかし、再稼働が進められているため、稼働時のことも考えなくてはならない。3年前の質問と重複する点もあるが、市の対応について問う。</p> <p>(1) 原発事故が起きた時の対策は進んでいるのか。</p> <p>(2) 必要物資の備蓄や体制はどうか。</p> <p>(3) ガソリン等は確保できるのか。</p> <p>(4) 市民は暖房用の灯油等が手に入るのか。</p> <p>(5) 住宅等の屋根融雪に使う灯油等は確保できるのか。</p> <p>(6) 道路除雪の燃料確保や除雪体制はとれるのか。</p> <p>3 市長の政治姿勢について</p> <p>議会の意思をどう考えるか。</p>

質問 順位	質 問 内 容
16	<p>1 なぜ示せぬ、財政計画（財政シミュレーション）</p>
議席	
19	
<p>今 井 久 美 (一問一答方式)</p>	<p>第2次総合計画が策定されたこの節目の時に、これからの10年、市の財政はどのように変化していくのか。予算審議の判断資料とするため「財政計画（財政シミュレーション）」を示すよう再三要望してきた。施政方針では、財政計画を新年度前半に公表できるよう取り組んでいるとのコメントである。第2次総合計画でも、起債償還額の増加が財政を圧迫し、財政運営を硬直化させることを危惧している。議会初日の答弁で何となく雰囲気は分かったが、議決する議会にも現状を示すべきではないか。</p> <p>2 環境政策について</p> <p>(1) 副市長をトップに地盤沈下対策を検討した結果はいかに。</p> <p>(2) 地盤沈下対策に対する融雪協会や克雪用水対策協議会からの提言は、どのように検討されたのか。</p> <p>(3) 「水素エネルギーを消雪パイプの熱源に活用すべき」と提言してきた。C O P 21 でパリ協定も採択され、地球規模で約束された温室効果ガス削減は、市の環境基本計画でも謳っている。吸収源としての森林育成、化石燃料に代わる新エネルギーの検討は、市の産業育成・雇用を生み出す政策と確信するが見解は。P D C A を基にアクションを起こす時ではないか。</p> <p>3 これからの市政運営をどうするのか</p> <p>市長任期も数か月となった。11月に向けて現時点での考えを伺う。</p>

質問 順位	質 問 内 容		
18	<p style="text-align: center;">可燃ごみ処理施設問題を問う</p>		
議席		<p>(1) 今日までの施設修繕修理費はいかほどか。</p> <p>(2) 瑕疵について市長の所見を伺う。</p> <p>(3) 耐用年数について市長の所見を伺う。</p> <p>(4) 設置企業との対応協議はいかに。</p> <p>(5) 今後の施設運営方向はいかに。</p>	
26			
若			
井			
達			
男			
(一問一答方式)			

質問 順位	質問内容
19	人口減少対策として産婦人科医院設置と女性医師の移住政策を
議席	
7	
桑 原 圭 美 (一問一答方式)	<p>人口減少対策は喫緊の課題であるが、それは自治体にとって経済効率を重視した循環型の政策でなければならない。当地は首都圏からのアクセスが良好であり、通勤圏内にある。人口減少対策の一丁目一番地は安心安全な出産であると考えているが、これに対する当市の状況はどうか。他市の産婦人科医院で出産した事例をよく耳にするが、これは当市で行うべき住民サービスである。移動に要するコストは経済的な部分だけではなく身体的、精神的にも大きい。この問題に特化して、出産しやすい環境整備を積極的に行わなければ当市の人口は増加しないのではないだろうか。</p> <p>また、当市の医師不足を女性医師とその家族の移住を促進することにより克服し、人口増だけではなく、地域全体の経済的、知的レベルの向上を図る政策を行うべきである。女性医師は結婚・出産後の離職率が高く、その後は完全に離職するか非常勤医師として勤務するケースが多い。この部分に着目し、女性医師にとって働く環境が日本一整っている南魚沼市として、医師の多い東京都、埼玉県、千葉県からの移住を促進する政策を提案する。定住に至らずとも、子育て育児の期間だけでも当市に留まっていたければ循環型の医師誘致が可能と考えるが、市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 当市のお産の現状(出生数、産婦人科医師、助産師)と今後の課題をどう捉えているのか。</p> <p>(2) 公設産婦人科の設置により、市民のお産をサポートするべきではないのか。</p> <p>(3) 産婦人科医師の確保に際し、採算性の担保とリスクに対する補償が可能か。</p> <p>(4) 女性医師は結婚、出産を機に離職するケースが多い。医師不足解消と望ましい移住促進にこの部分へのアプローチが効果的と考える。首都圏からの移住政策に盛り込むべきと考えるが。</p> <p>(5) 女性医師の移住を促進する際、当然、家族の移住もセットになるが対策はとれるのか。</p> <p>(6) 経済的な子育て支援策は人口減少対策の成果が出にくい。経済支援とは違った内容の労働者への出産育児支援が人口増に必要と考えるが、今後こういった政策を検討していくのか。</p>

質問 順位	質 問 内 容
20	<p style="text-align: center;">生活困窮者の包括的支援体制について</p> <p>多重債務に苦しむ市民に対し早い段階で手を差し伸べ、生活再建を図るとともに、滞納整理にもつなげる支援体制を構築する考えがあるか伺う。</p>
議席	
9	
<p style="text-align: center;">笛 木 晶</p> <p style="text-align: center;">（一問一答方式）</p>	

